科目	心理学 (心・健・栄)	単位数	2
担当教員	多田　美香里		
履修対象	臨床心理学科1年春学期・健康科学科1年春学期・福祉栄養学科1年春学期		
目的	心理学には綿密な実証研究によって得られたデータの蓄積で得られた知識もあれば、すぐれた倫理観と論理性に根ざした解釈による知識もある。その両者が混在した形で幅広い研究領域である心理学を成り立たせ、研究領域の幅を広げてもいる。この授業ではすべての研究領域をカバーすることはできないが、基本的な知識を紹介することを通して、心理学の考え方の特徴をつかむことを目指す。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 （1）心理学の学術的専門書を読む。 （2）心理学の知識を自分の専門領域に応用する。 「思考・判断」 （1）学術的な心理学と科学的でない心理学の違いを区別する。 （2）心理学の代表的な研究・基礎用語・構成概念について説明できる。		
授業計画			
1	心理学とは、心理学の歴史：心理学が扱う対象、細分化された領域、心理思想、心理学が成立した状況、学派		
2	人間の行動特徴：動物と人間、生得性と獲得性、初期経験		
3	発達：発達観、言語発達、自我の形成、発達段階、加齢		
4	学習：古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習		
5	感覚：感覚の種類と範囲、感覚間統合		
6	知覚：注意、体制化、恒常性、空間と運動		
7	認知：記憶の過程、非言語的記憶、学習プログラム		
8	言語：音声、運用と理解、概念獲得		
9	思考：問題解決、推論、創造的思考		
10	動機づけ：内発的動機、社会的動機、動機の階層と獲得、原因帰属		
11	情緒：ノンバーバルコミュニケーション、情動表出、気分と感情		
12	人格：把握と形成、特性と類型、検査、知能		
13	社会：個人と集団、対人認知		
14	臨床：異常心理学、心理アセスメント、心理療法論		
15	再び、心理学とは：これまでのまとめとそれを踏まえた心理学の考え方の確認、関連する領域		
授業形態／具体的な内容	教員が用意した資料（レジュメ）に基づき、授業をすすめる。この授業の主眼は心理学の初歩的な知識の習得を目指すものであるため、用語や構成概念の理解を確認するため、小テスト等を実施する。		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
教科書は指定しない			
参考書			
成績評価の基準・方法	受講態度、小テスト等の評価、定期試験の成績等から総合的に評価する。		
留意点			
準備学習	心理学の書籍や論文を読んでおくことが望ましい。		
備考		№.	GE712003

科目	心理学概論	単位数	2
担当教員	鎌田　次郎		
履修対象	臨床心理学科1年秋学期・健康科学科1年秋学期		
目的	心理学の歴史と諸理論から心理学が科学としてどんな努力をして発展してきたか、どんな考え方があるかを学びながら、心理臨床に必要な基礎心理学的知識を身につけます。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 （1）心理学と臨床心理学に関心をもち、学ぶ意欲を高められる。 （2）心理学と似非心理学の区別がつき、科学的態度が身につく。 「思考・判断」 （1）学んだ心理学用語や理論を使って日常の経験を考えられるようになる。 （2）各分野の心理学の歴史的背景を考えられるようになる。 「表現・技能」 （1）心理臨床においてクライエントの心理を分析するための概念や基本姿勢を得ることができる。 「知識・理解」 （1）心理学の歴史と代表的な心理学理論を知ることができる。 （2）心理学という学問のアウトラインを知ることができる。		
授業計画			
1	心理学とは／この講義で何を学ぶか		
2	心理学の長い過去：哲学者による心のとらえ方		
3	近代心理学成立に影響を与えたウェーバーとフェヒナーの精神物理学		
4	ヴントの研究法と心理学理論		
5	近代心理学に影響した生理学、脳科学、進化論		
6	教育や法の現場からの応用心理学への刺激		
7	ガルトンによる統計的アプローチとフランスにおける心理臨床的アプローチ		
8	アメリカにおける心理学の発展：ジェイムズ～ウィットマー		
9	ヴント心理学の批判勢力：行動主義／精神分析／ゲシュタルト心理学		
10	アメリカ心理学の隆盛：レヴィン／新行動主義		
11	フロイト以降の精神分析学派		
12	人間性心理学		
13	認知心理学の成立と発展		
14	現代の心理学とこれからの心理学		
15	総復習		
授業形態／具体的な内容			
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
なし、配付資料（ただし、書き込み式）			
参考書	培風館：臨床心理学シリーズ①心理学概論／東京大学出版会：臨床心理学をまなぶ①これからの臨床心理学／もっと発展的には、誠信書房：心理学の新しいかたち2心理学史の新しいかたち		
成績評価の基準・方法	小テストの成績を加味し、定期試験の成績による。		
留意点	配付資料はすべて書き込み式なので授業を欠席すれば分からなくなります。		
準備学習	配付資料をもとに、何を勉強するのか、あらかじめ把握して、できれば図書館資料で資料の空所部分について考えておくことが望ましい。		
備考		No.	PY421002・HS121003

科目	心理統計学Ⅰ	単位数	2
担当教員	宇惠　弘		
履修対象	臨床心理学科1年春学期		
目的	心理学の研究で用いられる統計手法の基礎を学ぶ。こころの様子を知るために実験や調査、面接や観察などの方法によってデータが収集される。収集されたデータは数字に置き換え（数値化し）分析する。本講義で学ぶ心理統計学の知識は、データを分析するために欠かせないものである。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 （1）こころを数値で表現することに関心をもつ。 （2）マスメディアで目にする（耳にする）統計情報に関心をもつ。 「思考・判断」 （1）正しい計算ができているか、また、正しい統計知識の利用ができているか考えることができる。 「技能・表現」 （1）データの数量化、可視化ができる。 「知識・理解」 （1）記述統計と推測統計の説明ができる。 （2）統計的仮説検定について説明ができる。		
授業計画			
1	なぜ心理学に統計が？：こころを数字におきかえる、記述統計と推測統計		
2	1つの変数の特徴を記述しよう1：データとは、尺度水準		
3	1つの変数の特徴を記述しよう2：データの図表化		
4	1つの変数の特徴を記述しよう3：代表値、散布度		
5	1つの変数の特徴を記述しよう4：標準化		
6	2つの変数の特徴を記述しよう1：散布図とクロス集計表		
7	2つの変数の特徴を記述しよう2：共分散、相関係数、相関係数の性質		
8	標本から母集団を推測しよう1：母集団と標本、母集団分布を仮定する		
9	標本から母集団を推測しよう2：正規分布とその性質、標準正規分布、標準正規分布表		
10	標本から母集団を推測しよう3：標本分布、標準誤差、推定と推定量		
11	標本から母集団を推測しよう4：不偏性、不偏分散		
12	統計的仮説検定って何だろう1：統計的仮説検定の考え方、帰無仮説と対立仮説		
13	統計的仮説検定って何だろう2：有意水準、検定結果の報告		
14	統計的仮説検定って何だろう3：両側検定と片側検定、統計的検定における2種類の誤り		
15	統計的仮説検定って何だろう4：統計的仮説検定の手順		
授業形態／具体的な内容	講義に加えて電卓を用いた計算の実習		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
よくわかる心理統計学	山田剛史・村井潤一郎	ミネルヴァ書房	
参考書	心理学のためのデータ解析テクニカルブック、森敏昭・吉田寿夫、1990年、北大路書房 初めて学ぶ統計学、菅民郎 ・桧山みぎわ 、2003年、現代数学社		
成績評価の基準・方法	宿題、期末テスト、学習意欲による総合評価		
留意点	宿題（事前学習と事後学習）は毎時課すので必ず提出すること。特に、復習を必ず実施すること。		
準備学習	事前学習のための宿題を提出すること		
備考	宿題の提出はマナバを利用する	No.	PY321001

科目	心理統計学Ⅱ	単位数	2
担当教員	多田　美香里		
履修対象	臨床心理学科1年秋学期		
目的	心理統計法Ⅰに続いて心理学の研究で用いる基本的な統計手法を学ぶ。本講義では、t検定、分散分析などを中心に扱う。解析手順のみではなくその理論的背景を理解しながら心理統計の基本的な考え方を学ぶことがねらいである。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 （1）論文の統計的記述を抵抗なく読む。 「思考・判断」 （1）ニュースやネット等で得られる情報に対して科学的・客観的判断をもって理解する。 「技能・表現」 （1）統計的手法に適合したデータが選択できる。 「知識・理解」 （1）基本的な心理統計の解析手順を理解する。		
授業計画			
1	カイ2乗検定（1）／適合度の検定		
2	カイ2乗検定（2）／独立性の検定		
3	復習／カイ2乗検定を用いた研究事例		
4	t検定／独立な2群の平均値差に関するt検定（1）		
5	t検定／独立な2群の平均値差に関するt検定（2）		
6	t検定／対応のあるt検定		
7	復習／t検定を用いた研究事例		
8	分散分析／1要因分散分析（1）		
9	分散分析／1要因分散分析（2）		
10	復習／1要因分散分析を用いた研究事例		
11	分散分析／2要因分散分析（1）		
12	分散分析／2要因分散分析（2）		
13	分散分析／2要因分散分析（3）		
14	復習／2要因分散分析を用いた研究事例		
15	まとめ／その他の統計の紹介、心理統計の特徴の復習		
授業形態／具体的な内容	講義に加えて電卓を用いた計算の演習や書き込み式の課題、コメントの記入を行う。		
教科書			

教科書名	著者名	出版社	金額
よくわかる心理統計	山田剛史・村井潤一郎	ミネルヴァ書房	2940

参考書	森敏昭・吉田寿夫（1990）心理学のためのデータ解析テクニカルブック　北大路書房 田中敏・山際勇一郎（1992）ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法　教育出版 山内光哉（2009）心理・教育のための統計法　サイエンス社		
成績評価の基準・方法	受講態度、小テスト、課題への取り組み、期末テストにより総合的に評価する。		
留意点	毎回宿題がある。また、定期的に課題やコメントの提出を求める。授業中に電卓を用いた計算を行うことがある。		
準備学習	統計的記述を意識しながら心理学の論文を読んだり、参考書など統計に関する本を読むなどの準備をしておくことが望ましい。		
備考		No.	PY321003

科目	心理学研究法	単位数	2
担当教員	亀島　信也		
履修対象	臨床心理学科2年秋学期		
目的	実験と観察の方法、質的・量的データとその収集方法など、心理学研究に必要な方法を学習する。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 （1）心理学研究法の面白さから学習意欲が高まる。 （2）課題（練習問題）を定期的にこなすことから、基本的な学習習慣を獲得する。 「思考・判断」 （1）心理学文献などで取りあげられた研究方法について、生産的に批判できる。 「技能・表現」 （1）卒業論文作成に必須な、研究デザインの仕方について基礎的技能を持つ。 「知識・理解」 （1）心理学を研究する方法や手順などを正確に説明できる。 （2）実験や観察の方法、ならびに、質的研究や量的研究を正確に理解し比較ができる。		
授業計画			
1	講義予定と講義内容、成績評価、注意事項などを説明する。		
2	心理学は科学的方法を用いていることを説明する。		
3	心理学の調査研究法の基礎と実験的研究を検討する。		
4	日常生活行動を検討する非実験的研究法を概観する。		
5	心理学研究で用いられる色々な研究デザインを比較検討する。		
6	標本抽出法を概説し実験のバイアスを抑える方法を示す。		
7	信頼性と妥当性の区別し、実験統制のエラーを検討する。		
8	実験や調査レポートでデータ提示する方法を詳説する。		
9	代表値・分布図・標準偏差と分布や基礎統計を学習する。		
10	心理学研究における4つの尺度レベルの違いを説明する。		
11	大学生に必要なノンパラメトリック検定法を紹介する。		
12	心理学研究に必須なパラメトリック検定法を区別する。		
13	推測統計で使用する有意水準・帰無仮説の棄却方法を示す。		
14	卒業論文でも使える研究レポートの書き方を説明する。		
15	心理学研究法のまとめとして今学期学習した内容を概観する。		
授業形態／具体的な内容			
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
心理学研究法入門　心理学エレメンタルズ	アン・サール著　宮本聡介訳　渡辺真由美訳	新曜社	2200円
参考書			
成績評価の基準・方法	単位認定に関しては、定期試験で判断する。定期試験については、担当教員の講義の理解を問う。講義中や補講期間中に小テストを行うこともあるので注意すること。		
留意点			
準備学習	開講初日に詳細なシラバスを配布するので、それに基づき週に1時間程度の準備学習を期待する。		
備考		No.	PY321002

科目	臨床心理アセスメントⅠ (心A)	単位数	2
担当教員	永田　俊代、大西　見也子		
履修対象	臨床心理学科2年春学期		
目的	臨床場面で使われることの多い代表的なアセスメントを体験し、施行法、解釈法の実際を学びます。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 （1）臨床アセスメントに関心を持つ。 （2）倫理について注意を払うようになる。 「思考・判断」 （1）臨床心理アセスメントを体験し、検査者の役割や姿勢が分かるようになる。 （2）臨床心理検査を受けるクライエントの気持ちが分るようになる。 「技能・表現」 （1）質問紙法を中心に具体的な施行法を修得する。 （2）心理所見の書き方を習得する。 「知識・理解」 （1）質問紙法を中心に臨床心理アセスメントとは何かが分かる。		
授業計画			
1	授業のオリエンテーション/臨床心理アセスメントとは何かを説明します（担当：永田）。		
2	Y-G（矢田部ギルフォード）の実習と解釈について説明します（担当：永田）。		
3	NEO-FFI　について概説します（担当：永田）。		
4	NEO-FFI　の実習と解釈について説明します（担当：永田）。		
5	新版TEGⅡの概説について、ビデオ鑑賞を行います（担当：永田）。		
6	新版TEGⅡの実習と解釈について説明します（担当：永田）。		
7	臨床心理アセスメントⅠ前半のまとめ/事例の紹介と事例に即したアセスメントの留意点などについて解説します（担当：永田）。		
8	インテーク面接とは何かを説明します（担当：大西）。		
9	内田クレペリン精神検査について概説します（担当：大西）。		
10	内田クレペリン精神検査の実習と解釈について説明します（担当：大西）。		
11	CMI　健康調査票、STAI　の実習と解釈について説明します（担当：大西）。		
12	P-Fスタディ について概説します（担当：大西）。		
13	P-Fスタディ の実習と解釈について説明します（担当：大西）。		
14	臨床心理アセスメントの倫理、春学期に紹介したアセスメントのまとめをします（担当：永田・大西）。		
15	春学期に紹介したアセスメントの振り返りと授業内試験を実施します（担当：永田・大西）。		
授業形態／具体的な内容	複数のクラスで進めるため、取り上げるテストの順番が前後することがあります。 講義だけではなく、実習形式の体験学習が中心となります。		
教科書			

教科書名	著者名	出版社	金額

参考書			
成績評価の基準・方法	授業態度、提出物、授業内試験などにより総合的に評価します。		
留意点	授業で使用する心理テスト用紙を大学の指示に従って購入し、毎回持参して本講義に望むこと。 授業で配布したプリントは紛失しないように管理し、毎回持参して本講義に望むこと。		
準備学習	特に予習は必要としませんが、復習を確実に履行して下さい。		
備考		No.	PY422001

科目	臨床心理アセスメントⅡ (心A)	単位数	2
担当教員	粟村　昭子、大西　見也子		
履修対象	臨床心理学科2年秋学期		
目的	臨床場面でも特に重視される個別式知能検査や投映法について、体験学習と講義の二本立てで学ぶ。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 （1）個別式検査を積極的に体験する。 （2）自分自身で心理検査の解釈を試みる。 「思考・判断」 （1）代表的な知能検査の用い方がわかるようになる。 （2）投映法の基礎理論についてわかるようになる。 「技能・表現」 （1）個別式知能検査を部分的に施行することができる。 （2）ロールシャッハテストのサイン化がある程度できるようになる。 「知識・理解」 （1）集団式検査と個別式検査の違いを正しく理解する。 （2）知能検査の種類と知能指数の考え方の違いについて説明できる。 （3）投映法と質問紙法の違いを正しく理解する。		
授業計画			
1	はじめに、アセスメントとは／授業のやり方、約束事、歴史的背景の紹介 (担当：北村・粟村〉		
2	アセスメントの基礎知識（1）／知能検査の基礎知識の獲得 (2～7回　担当：北村）		
3	アセスメント実習（1）／知能検査の施行法の獲得 (WISC)		
4	アセスメント実習（2）／知能検査の施行法の獲得 (WISC)		
5	アセスメント実習（3）／知能検査の施行法の獲得（K-ABC)		
6	アセスメント実習（4）／知能検査の施行法の獲得（K-ABC)		
7	アセスメントの基礎知識（2）／知能指数の基礎理論と算出方法の獲得・知能検査のまとめ		
8	アセスメントの基礎知識（3）／投映法の基礎知識の獲得 (8~14回　担当：粟村）		
9	アセスメントの基礎知識（4）／ロールシャッハ・テストの基礎知識の獲得		
10	アセスメントの基礎知識（5）／ロールシャッハ・テストの基礎知識の獲得		
11	アセスメントの基礎知識（6）／描画テストの基礎知識の獲得		
12	アセスメント実習（5）／描画テストの施行法と解釈理論の獲得		
13	アセスメントの基礎知識（6）／SCTの基礎理論の獲得		
14	アセスメントの基礎知識（7）／SCTの基礎理論の獲得		
15	倫理とまとめ／倫理についての知識の獲得と平常試験 (担当：北村・粟村）		
授業形態／具体的な内容			
教科書			

教科書名	著者名	出版社	金額

参考書			
成績評価の基準・方法	授業態度、試験により総合的に評価する。		
留意点	臨床心理アセスメントⅠと同様、授業で使用する心理テスト用紙を持参して本講義に臨むこと。私語、大幅な遅刻は認めない。		
準備学習	準備学習 特に予習は必要としませんが、復習を確実に履行してください。		
備考		№.	PY422003

科目	臨床心理アセスメントⅢ	単位数	2
担当教員	櫻井　秀雄		
履修対象	臨床心理学科3年春学期		
目的	臨床心理査定法のうち、児童を対象としたアセスメント−特に、児童相談所や乳幼児健診、学校臨床等で用いられる知能・発達検査を中心に、事例を踏まえて演習する。特に、近年、不登校・引きこもり児童や被虐待児に何らかの発達障害が認められることを鑑み、「軽度発達障害」のアセスメントについて取り上げる。 具体的には、最初に乳幼児健診に最も適用される「新版K式発達検査2001」について、続いて軽度発達障害のアセスメントに有効なWISC-Ⅲ・Ⅳ／WAIS-ⅢやK-ABC等について、その検査法及び解釈法について学ぶ。さらには、知的発達症・自閉スペクトラム症（広汎性発達障害）・特異的発達症（学習障害）・注意欠如/多動性障害等の知能・発達検査上の特徴を概観しつつ、それぞれのアセスメントに基づく臨床心理学的介入法を紹介する。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 （1）受動的ではなく自ら学ぶ意思を示す。 「思考・判断」 （1）他人に言われるのではなく自ら学ぼうとする。 （2）発達や知的能力のアセスメント結果から適切な指導・助言を判断できる。 （3）発達や知的能力のアセスメント結果に基づく環境調整等の決定をするプロセスを思考する。 （4）以上より、臨床心理アセスメントついて、総合的に思考・判断できるようになる。 「技能・表現」 （1）基礎的な臨床心理アセスメントの所見を作成できるようになる。 「知識・理解」 （1）知能構造について知る。 （2）発達や知的能力のアセスメント方法を理解する。		
授業計画			
1	はじめに/授業のオリエンテーション		
2	総論①/知能・発達診断とは何か？		
3	総論②/知能構造について		
4	総論③/知能・発達指数について～比IQと偏差IQ		
5	心理検査の活用（1）/新版K式発達検査法2001/姿勢・運動領域		
6	心理検査の活用（2）/新版K式発達検査法2001/認知・適応領域について（第1葉～第2葉）		
7	心理検査の活用（3）/新版K式発達検査法2001/認知・適応領域について（第3葉）		
8	心理検査の活用（4）/新版K式発達検査法2001/認知・適応領域について（第4葉～第5葉）		
9	心理検査の活用（5）/新版K式発達検査法2001/言語・社会領域について（第1葉～第3葉）		
10	心理検査の活用（6）/新版K式発達検査法2001/言語・社会領域について（第4葉～第5葉）		
11	心理検査の活用（7）/ウェクスラー法による知能検査法（WISC-Ⅲ・Ⅳ）について		
12	心理検査の活用（8）/ウェクスラー法による知能検査法（WAIS—R・Ⅲ）について		
13	心理検査の活用（9）/K-ABCの実施方法と解釈について		
14	知能・発達検査所見のまとめ方/個別教育計画（IEP）と教育評価		
15	発達検査と神経発達症および被虐待児支援		
授業形態／具体的な内容	講義形式で行う。必要に応じプリントを用意する。板書は最小限にし、各自が要約筆記に努めるようにすること。		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
指定しない			
参考書	適宜配布するプリントに加え、下記の文献を参考図書とする。 福祉現場における臨床心理学の展開～医学モデルとライフモデルの統合を目指して/袴田俊一・三田英二・櫻井秀雄・西村武・寶田玲子（久美出版） 新版K式発達検査2001実施手引書/生澤雅夫、松下裕、中瀬惇編著/京都国際社会福祉センター、新版K式発達検査法2001年版　標準化資料と実施法/新版K式発達研究会/ナカニシヤ出版、発達相談と援助　新版K式発達検査2001を用いた心理臨床/川畑 隆 他/ミネルヴァ書房		

成績評価の基準・方法	授業態度、レポート、講義内容に対する疑問やコメントなども含めた総合で評価する。		
留意点	授業には真剣に取り組んでほしい。特に他の受講者に迷惑を及ぼすような態度・行動は厳に慎むこと。		
準備学習	毎回の講義についてのノートおよび配付する資料は大切に保管し、必ず、復習して、次回に臨むこと。		
備考	講義テーマ等については、変更や入れ替えの可能性がある。	No.	PY622001

科目	心理学基礎実験Ⅰ (心A)	単位数	1
担当教員	多田　美香里、木村　年晶、石橋　遼		
履修対象	臨床心理学科2年春学期		
目的	心理学の基礎分野の題材をもとに簡単な実験を自ら実施し、科学における実験の意義と方法についての理解を深めます。すなわち、心理の数量化・客観化の方法、人間心理の一般的傾向の検証方法、また、仮説と検証という科学の基本方法を学びます。個別事例の診断技術の背景には、このような方法で研究・調査されてきた「人間一般」についてのデータの蓄積があります。医学において、正常な身体の状態を知らずに身体の異常を診断できないのと同じです。既成の診断技術を無批判に受け入れる技術屋ではなく、その診断指針の背景理論とデータを理解できる心理臨床家となるためにも本講は重要な学習といえます。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 （1）心理学の学術論文を読み、古典的な研究例を追試する。 「思考・判断」 （1）実験を通して実証的な考え方をする。 「技能・表現」 （1）データ集計・統計的分析を行い、科学論文を作成する。 「知識・理解」 （1）心理測定、仮説検証について説明できる。		
授業計画			
1	ガイダンスとレポート作成練習（1）：受講の注意点の確認、レポートの書き方の概説、レポート作成練習用課題の実施（「目的」、「方法」部分の完成）		
2	レポート作成練習（2）：レポート作成練習用課題の実施（「結果」、「考察」部分の完成）		
3	触2点閾の測定（1）：閾値とは「感じない」と「感じる」との境目にあたる刺激の値を指し、感覚の鋭さの程度（感度）を示します。この実習では触2点閾を測定し、閾値の測定法を学びます。この回は実験の意義と実験方法を解説します。		
4	触2点閾の測定（2）：実験を実施し、集計作業を行います。		
5	触2点閾の測定（3）：データの整理を行い、分析方法について解説します。		
6	触2点閾の測定（4）：レポート作成指導と個別質問受付を行います。		
7	系列位置効果（1）：記銘材料リストの記銘と想起を行い、リストの系列位置によって想起に違いが生じるかどうかを検討します。この実験は、記憶の仕組みを考える上で歴史的にも非常に重要な実験です。その意義を理解し、実際に実験で確かめてみましょう。この回は記憶の現象および実験方法の解説を行います。		
8	系列位置効果（2）：実験を実施し、集計作業を行います。		
9	系列位置効果（3）：データの整理を行い、分析方法について解説します。		
10	系列位置効果（4）：レポート作成指導と個別質問受付を行います。		
11	知覚運動学習（1）：この実験では、鏡映描写の課題を用いて学習の転移について考えていきます。この回は実験の意義と実験方法を解説します。		
12	知覚運動学習（2）：実験を実施し、集計作業を行います。		
13	知覚運動学習（3）：データの整理を行い、分析方法について解説します。		
14	知覚運動学習（4）：レポート作成指導と個別質問受付を行います。		
15	実習のまとめ：添削したレポートを例に、改善点について確認します。		
授業形態／具体的な内容	3つの実験を4週ずつ順に行います。順番は班によって異なります。実習の報告書としてレポートを提出し、添削を受け、修正を繰り返しながら、科学論文を書く力を養います。		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
教科書は指定せず、教員が用意したレジュメに基づいて授業をすすめます。			
参考書	心理学実験指導研究会 (1985). 実験とテスト＝心理学の基礎　培風館		
成績評価の基準・方法	授業・実験への参加度、態度、レポートによって総合的に評価します。すべての課題でレポートを提出しなければ単位の取得は認めません。不正行為（他人のレポートを写す行為など）の疑いがある場合は、単位を認定しません。		
留意点	授業中は、実験の実施に適した環境づくりを各自心がけてください。		
準備学習	実験心理学、心理学研究法に関する書籍を読んでおくこと。		
備考		No.	PY322004

科目	心理学基礎実験Ⅱ (心A)	単位数	1
担当教員	多田　美香里、木村　年晶、寺田　衣里		
履修対象	臨床心理学科2年秋学期		
目的	心理学の実験を通して実証的な考え方を学ぶことがこの科目のねらいです。心理学基礎実験Ⅱに続いて、心理学の基礎分野の題材をもとに実験を行い、報告書を作成します。心理学基礎実験Ⅱで学んだことを活かして、さらに高度なデータ処理方法や考察を深めることにも挑戦しましょう。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 （1）心理学の学術論文を読み、古典的な研究例を追試する。 「思考・判断」 （1）実験を通して実証的な考え方をする。 「技能・表現」 （1）データ集計・統計的分析を行い、科学論文を作成する。 「知識・理解」 （1）心理測定、仮説検証について説明できる。 （2）心理学の研究例について改善点やより良い検証方法の提案ができる。		
授業計画			
1	SD法によるイメージの測定と比較（1）：心理学で広く用いられている印象判断（イメージ）を測定する方法を学びます。各自が対象概念を決め、仮説を立て、調査・検証します。この回は、SD法の意義と方法を解説します。		
2	SD法によるイメージの測定と比較（2）：調査を実施し、集計作業を行います。		
3	SD法によるイメージの測定と比較（3）：データの整理を行い、分析方法について解説します。		
4	SD法によるイメージの測定と比較（4）：レポート作成指導と個別質問受付を行います。		
5	ミュラー・リヤーの錯視（1）：私たちに見えているままの世界と物理的世界は必ずしも同じではありません。本実験は錯視の現象についてミュラー・リヤーを用いて実験を行います。この回は錯視の現象および実験方法を解説します。		
6	ミュラー・リヤーの錯視（2）：実験を実施し、集計作業を行います。		
7	ミュラー・リヤーの錯視（3）：データの整理を行い、分析方法について解説します。		
8	ミュラー・リヤーの錯視（4）：レポート作成指導と個別質問受付を行います。		
9	行動観察（1）：行動を観察し、記録し、分析することで行動の特徴や法則性を明らかにする手法を体験します。観察から得たデータの分析方法や発話などの情報の扱い方を学びます。この回は、実験の意義と実験方法を解説します。		
10	行動観察（2）：実験を実施し、集計作業を行います。		
11	行動観察（3）：データの整理を行い、分析方法について解説します。		
12	行動観察（4）：レポート作成指導と個別質問受付を行います。		
13	実習のまとめ（1）：これまでの実習で学んだことを確認するための課題を行います。課題は、レポート（ある大学生が作成したと想定する）を添削するというものです。自分が学んだ知識を生かして、このレポートがより良いものになるように、間違いを指摘したり、アドバイスを書き込みましょう。		
14	実習のまとめ（2）：前回に続いて、レポート添削課題を行います。		
15	実習のまとめ（3）：作成したレポート添削課題を元に、実験およびレポート作成に関する個別質問を受け付けます。		
授業形態／具体的な内容	3つの実験を4週ずつ順に行います。順番は班によって異なります。 実習の報告書としてレポートを提出し、添削を受け、修正を繰り返しながら、科学論文を書く力を養います。		

教科書

教科書名	著者名	出版社	金額
教科書は使用せず、教員が用意した教材に基づいて授業をすすめます。			

参考書	心理学実験指導研究会 (1985). 実験とテスト＝心理学の基礎　培風館		
成績評価の基準・方法	授業・実験への参加度、態度、レポートによって総合的に評価します。すべての課題でレポートを提出しなければ単位の取得は認めません。また、不正行為（他人のレポートを写すなど）の疑いがある場合は、単位を認定しません。		
留意点	授業中は、実験の実施に適した環境づくりを各自心がけてください。		
準備学習	心理学基礎実験Ⅰで習得したことを深めていきます。以前添削を受けたレポートや、実習の反省点などを振り返って復習しておいてください。また、理解を深めるために、実験心理学、心理学研究法に関する書籍を読んでおくことを推奨します。		
備考		No.	PY322005

科目	心理学調査実習Ⅰ	単位数	1
担当教員	宇惠　弘		
履修対象	臨床心理学科3年春学期		
目的	心理学の代表的研究法の1つである質問紙調査法について学習をします。質問項目の作成方法とその回答方法、ならびに調査の手続きと、尺度構成のプロセスを理解・体得することが目的です。まず、質問項目作成時に留意する点を学び、実際に質問項目を作成します。次に、作成した質問項目を使用して調査を実施し、収集した資料によって項目分析を行います。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 （1）人間の行動、態度、思考などを的確にとらえるための項目作成について関心を持つ。 （2）質問紙調査を実施する際の倫理について関心を持つ。 （3）意欲的に、項目の分析に取り組む。 「思考・判断」 （1）人間の行動、態度、思考などを的確にとらえる項目となっているか考えることができる。 （2）分析結果をもとに、項目が妥当であるか考えることができる。 「表現・技能」 （1）コンピュータを利用し、質問紙の作成からデータの入力までをおこなうことができる。 「知識・理解」 （1）質問項目の作成方法について理解し、実践で役立てることができる。 （2）調査倫理について理解し、実践で役立てることができる。 （3）項目の分析方法について理解し、説明できる。		
授業計画			
1	質問紙調査法とは／他の研究法と比較して		
2	項目作成の基礎1／測定内容の明確化、項目作成の方法		
3	項目作成の基礎2／質問項目を整える		
4	項目作成の基礎3／項目作成にあったての注意事項、ワーディング、内容妥当性の検討		
5	回答方法選択の基礎		
6	フェースシートの作成		
7	サンプリングの方法、調査の実施方法		
8	調査倫理の問題		
9	資料の整理1／エディティング、コーディング、欠損値の処理		
10	資料の整理2		
11	資料の整理3		
12	項目分析1／項目困難度1		
13	項目分析2／項目困難度2		
14	項目分析3／項目識別力1		
15	項目分析4／項目識別力2		
授業形態	実習		
教科書			
教科書名	著者	出版社	金額
心理学マニュアル　質問紙法	鎌原・宮下・大野木・中澤　編著	北大路書房	1,500円+tax
参考書	「調査法講義」（豊田秀樹著、朝倉書店） 「心理尺度の作り方」（村上宣寛著、北大路書房） 「SPSSとAmosによる心理・調査データ解析」（小塩真司著、東京図書） 「SPSS完全活用法データの入力と加工」（酒井麻衣子著、東京図書）		
成績評価の基準・方法	学習意欲　40% 課題提出状況と学習内容確認試験　60%		
留意点	課題の提出を頻繁に求めます		
準備学習	心理統計学の学習を終えている、あるいは本年度履修していることが望ましい。 コンピュータの操作、特にExcelの操作に熟達していること。		
備考			

科目	心理学調査実習Ⅱ	単位数	1
担当教員	宇惠　弘		
履修対象	臨床心理学科3年秋学期		
目的	心理学基礎実験と調査実習から得られたデータに対して、統計的手法と用いた分析の過程を理解・体得することが目的です。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 （1）実験と調査からデータを収集する方法について関心を持つ。 （2）得られたデータ分析をすることに関心を持つ。 「表現・技能」 （1）得られたデータを集約することができる。 （2）統計解析した結果を解釈することができる。 「知識・理解」 （1）得られたデータを集約し分析する方法について理解し、実践できる。 （2）データ分析の方法を理解し、実践できる。		
授業計画			
1	オリエンテーション		
2	MS-Excelと解析ソフトの操作１		
3	MS-Excelと解析ソフトの操作２		
4	日常的な記憶に関する実験１／実験の概要説明		
5	日常的な記憶に関する実験２／実験とデータ収集		
6	日常的な記憶に関する実験３／データの集約と解析（カイ二乗とt検定）		
7	日常的な記憶に関する実験４／レポート作成		
8	社会的促進１／実験の概要説明		
9	社会的促進２／実験とデータ収集		
10	社会的促進３／データの集約と解析（t検定）		
11	社会的促進４／レポート作成		
12	質問紙法（人格検査）１／調査の概要説明		
13	質問紙法（人格検査）２／質問紙法の実施とデータの収集		
14	質問紙法（人格検査）３／データの集約と解析（相関と分散分析）		
15	質問紙法（人格検査）４／レポート作成		
授業形態	実験		
教科書			
教科書名	著者	出版社	金額
特に使用しない			
参考書			
成績評価の基準・方法	学習意欲　40% 課題提出状況と学習内容確認試験　60%		
留意点	課題の提出を頻繁に求めます		
準備学習	心理統計学の学習を終えている、あるいは本年度履修していることが望ましい。 Excelの操作に慣れていること。		
備考			

科目	臨床心理学実習Ⅰ (心A)	単位数	2
担当教員	渡部　敦子、大西　見也子		
履修対象	臨床心理学科2年春学期		
目的	臨床心理学的面接の基本となる基礎的な知識や技法について学び、体験することを目的とします。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 （1）臨床心理学的面接に関心をもつようになる。 （2）相手の気持ちを理解することへの関心が高まる。 「思考・判断」 （1）相手の気持ちについて考えるようになる。 「技能・表現」 （1）基礎的な臨床心理学的面接ができるようになる。 （2）日常場面でのコミュニケーション能力が高まるようになる。 「知識・理解」 （1）臨床心理学的面接の実践が理解できるようになる。		
授業計画			
1	オリエンテーション（担当：渡部・大西）		
2	人を援助するとは（担当：渡部）		
3	話を聴くということ／自分と相手の感情に耳を傾ける（担当：渡部）		
4	自分と相手の価値観を理解する（担当：渡部）		
5	話を進めるための援助（担当：渡部）		
6	非言語的なコミュニケーションの理解（担当：渡部）		
7	言語的な技法について（担当：渡部）		
8	事例について考える／前半のまとめ（担当：渡部）		
9	傾聴の演習①自分自身の感情に耳を傾けることについて学び、実習します。（担当：大西）		
10	傾聴の演習②クライエントの感情に耳を傾けることについて学びます。（担当：大西）		
11	傾聴の演習③クライエントの感情に耳を傾ける実習をします。（担当：大西）		
12	傾聴の演習④クライエントのものの見方に耳を傾けることについて学びます。（担当：大西）		
13	傾聴の演習⑤クライエントのものの見方に耳を傾ける実習をします。（担当：大西）		
14	傾聴の演習⑥お互いのものの見方を理解することについて学び、実習をします。（担当：大西）		
15	全体のまとめと振り返り（担当：大西）		
授業形態／具体的な内容	講義および演習形式。		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
指定教科書なし。適宜プリントを配布します。			
参考書	適宜、授業内で紹介します。		
成績評価の基準・方法	受講態度、提出物等から総合的に判断します。		
留意点	実習には積極的に取り組んでください。		
準備学習	授業で学んだことについて、日常生活の中ではどのように応用できるか考えてみることで、より自分自身のものにすることができます。		
備考	渡部、大西が半分ずつ担当します。	№.	PY422002

科目	臨床心理学実習Ⅱ (心A)	単位数	2
担当教員	三田村　仰、大西　見也子		
履修対象	臨床心理学科2年秋学期		
目的	臨床心理学実習Ⅰでは、学派や技法を超えて心理面接において求められる基本的な姿勢や態度について学んだと思います。 臨床心理学実習Ⅱでは、基本的な姿勢を基盤としながら、各学派において提唱され有用とされてきた心理的援助技法の中から、認知行動療法等の心理的援助技法を取り上げて、オムニバス形式で実習を行います。		
達成目標	「態度・関心・意欲」 （1）現代社会におけるこころの問題に対して、より具体的な心理援助について考えようとする姿勢を養う。 「思考・判断」 （1）多種多様な心理的問題を理論的枠組みを用いて理解し、援助の方向性を考える力をつける。 「技能・表現」 （1）こころの問題に対して、心理学論に基づいた心理的援助技法を用いた援助のあり方を考える力を高める。 「知識・理解」 （1）認知行動療法等の心理援助技法を体験を通して身につける。		
授業計画			
1	オリエンテーション/授業概要:心理的援助について進め方の説明 （担当：三田村・大西）		
2	アサーションとは （担当：三田村）		
3	上手に断る （担当：三田村）		
4	上手に頼む （担当：三田村）		
5	ありがとうと褒め言葉を使う （担当：三田村）		
6	誤解を解く，反対意見を言う （担当：三田村）		
7	難しい対人場面での対応を工夫する （担当：三田村）		
8	まとめ/授業前半のふり返り （担当：三田村）		
9	ロール・プレイ①「いじめ」の事例をもとに、クライエントの感情に耳を傾ける体験をします （担当：大西）		
10	臨床心理学的面接の基礎①知識と技法を学び、クライエントのこころの状態を理解します （担当：大西）		
11	ロール・プレイ② 「虐待」の事例をもとに、クライエントの感情に耳を傾け、理解する体験をします （担当：大西）		
12	臨床心理学的面接の基礎②面接のプロセスについて学びます （担当：大西）		
13	ロール・プレイ③「不登校」の事例をもとに、理解したことをクライエントに伝える体験をします （担当：大西）		
14	ロール・プレイ④「発達障害」の事例をもとに「今、ここでhere&now」をクライエントに伝える体験をします （担当：大西）		
15	臨床心理学的面接の振り返り （担当：大西）		
授業形態／具体的な内容	実習形式（ワーク、ロールプレイ、ディスカッション）を中心に行う。		
教科書			

教科書名	著者名	出版社	金額

参考書	授業の中で、適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	学習意欲、受講態度、提出物などにより総合的に評価する。		
留意点	実習中心であるため、無断欠席、遅刻は厳禁。また、受講生には積極的な参加が求められる。		
準備学習	普段から新聞やテレビで報道されている社会的問題に意識を向けて、どのような援助・介入が可能かを考えるようにしましょう。記事をスクラップしておくのもいいかもしれません。		
備考	適宜、資料を配布する。	No.	PY422004

科目	臨床心理学実習Ⅲ (心A)	単位数	2
担当教員	谷向　みつえ		
履修対象	臨床心理学科3年秋学期		
目的	柏原市の子育て広場ほっとステーションで乳幼児の親子とかかわる体験を通して、臨床心理学的視点から子育て支援の意味や方法について学び、考えを深める。また異世代の人とかかわる力、支援する力、さらには親性の力をも涵養することを目的とする。臨床心理学的な視点をもって地域と交流してみよう。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 （1）乳幼児の発達や子育て、親になることに興味や関心を持つ。 （2）利用者とかかわることで「支援する」ことに関心や意欲を持つ。 「思考・判断」 （1）人を「支援する」という意味について深く考え、自分の価値感を持つようになる。 （2）乳幼児の発達や親子関係について心理学的見地から見立ての気づきが得られるようになる。 「表現・技能」 （1）自分とは異なる世代の人の話しを傾聴するスキルが磨かれる。 （2）乳幼児とかかわり、言葉を主体としないコミュニケーション力がつく。 「知識・理解」 （1）乳幼児期の発達、親子の関係性について理解が深まり、見立てができる。 （2）臨床心理学的な支援への理解が深まる。		
授業計画			
1	オリエンテーション／本実習の目的と実習施設の説明および実習内容について		
2	子育てを支援する臨床心理学的な意義／現代の親や子どもの心理や子育て環境の現状について考える		
3	子育て支援とは／地域子育て支援拠点の活動内容について学習する		
4	乳幼児期の子どものすがた／乳幼児期の発達の復習と乳幼児発達アセスメントについて学ぶ		
5	乳幼児期の親子関係の特徴／親子とかかわるためのヒントを考える		
6	学外現場実習①／子育て広場の様子を観察してみよう		
7	カンファレンス（1）／学外現場実習①の振り返り		
8	学外現場実習②／子どもやお母さんとかかわってみよう　その1		
9	カンファレンス（2）／学外現場実習②の振り返り		
10	学外現場実習③／子どもやお母さんとかかわってみよう　その2		
11	カンファレンス（3）／学外現場実習③の振り返り		
12	学外現場実習④／子どもやお母さん、地域の方とかかわってみよう		
13	学外現場実習⑤／広場における支援の意味について考えてみよう		
14	カンファレンス（4）／学外現場実習④⑤の振り返り		
15	まとめ　一実習から得られた体験を振り返って一		
授業形態／具体的な内容	講義、演習形式、学外現場実習（柏原市子育て広場ほっとステーション）		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
適宜、資料を配布する			
参考書	「乳幼児のこころ　子育ち・子育ての発達心理学」 遠藤利彦・佐久間路子・徳田治子・野田淳子，有斐閣アルマ 「子どもの心の発達がわかる本」 小西行郎/ 講談社 「乳幼児の発達障害診療マニュアル　健診の診かた・発達の促しかた」 洲鎌盛一，　医学書院 「地域子育て支援拠点ガイドラインの手引き-子ども家庭福祉の制度・実践をふまえて」 渡辺顕一郎・橋本真紀，中央法規		
成績評価の基準・方法	レポート、学外現場実習評価、実習記録等を総合して評価する。学外実習の実習態度および実習記録に関する学外実習指導者からの意見を評価に加味する。学外実習は指定された日時の中から5回を選び必ず出席すること。講義も含めて出席数が基準を満たさない場合は評価外となる。		

留意点	臨床心理学実習Ⅰ・Ⅱで習得したスキルや、発達心理学等で学んだ知識をフルに活用して実習に臨むこと、また自ら積極的に行動をおこすことにより多くの成果が得られる。		
準備学習	乳幼児発達心理学、子育て臨床心理学が履修済みもしくは併修であることが望ましい。		
備考	学外現場実習において健康への配慮、遅刻・欠席等の諸連絡は各自の社会的責任事項としてしっかりと自己管理してください。また、利用者に対しては倫理的配慮を守り安全で失礼のない実習態度を遵守してください。	№.	PY622002

科目	臨床心理学実習Ⅲ (心B)	単位数	2
担当教員	久保　信代		
履修対象	臨床心理学科3年秋学期		
目的	発達障碍児・者の対人関係を円滑にするための心理教育的支援として、ソーシャル・スキル・トレーニング（以下、SST）の知識と技法を実践的に学び、習得することを目的とします。まずは担当教員のファシリテートによってSSTを自ら体験していただき、最終的には他者のソーシャルスキル習得を支援するための演習を行います。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 （1）人の行動、及びその行動の背後にある心について関心を持つ。 （2）発達障碍児者に対するソーシャルスキルの向上のための技法について関心を持つ。 「思考・判断」 （1）発達障碍児者を支援することの意味について考え、自分の障碍観を確立する。 （2）発達障碍児者に起こりやすい対人関係の困難さについて、心理学的見地から見立ての気付きを得る。 「表現・技能」 （1）SSTに参加し、自らのソーシャルスキルを習得する.。 （2）他者支援のためのプログラム作成にあたり、他の受講者と建設的な協議を行うことができる。 （3）人間の行動を分析し、SSTの技法をベースに心理臨床的な関わりを提供することができる。 「知識・理解」 （1）発達障碍児者のSSTの考え方、技法について理解が深まる。 （2）発達障碍児者の心情に配慮した対応について考えることができるようになる。		
授業計画			
1	オリエンテーション（自己紹介、授業概要等）		
2	講義：発達障碍児者へのSSTの理論と技法		
3	SST①（コミュニケーションに関わるソーシャルスキル）		
4	SST②（コミュニケーションに関わるソーシャルスキル）		
5	SST③（コミュニケーションに関わるソーシャルスキル）		
6	カンファレンス①：SSTプログラム参加へののふりかえり		
7	講義：SST実施に際する環境的配慮		
8	講義：SST実施に際してのアセスメント		
9	SSTのプログラムの作成①		
10	SSTのプログラムの作成②		
11	SSTプログラムの実践①		
12	SSTプログラムの実践②		
13	SSTプログラムの実践③		
14	カンファレンス②：SSTプログラム指導者としてのふりかえり		
15	総括: これまでの学びのまとめ		
授業形態／具体的な内容			
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
授業で指示をする			
参考書	「実践ソーシャルスキルマニュアル」上野一彦ら（明治図書2006） 「LD、ADHD、高機能自閉症児へのライフスキルトレーニング」小貫悟ら（日本文化科学者2009） 「子どもと大人の架け橋」村瀬嘉代子(金剛出版2009)		
成績評価の基準・方法	①授業への出席　②発表　③試験によって総合的に評価します。 出席回数が全体の2/3である場合には不可とします。		
留意点	能動的な参加を期待します。技能の学習ですので欠席のないようにお願いします。		
準備学習	発達障碍を有する児・者へのアセスメント法や支援技法について学んでおくこと		
備考		No.	